

飯田再興物語

～人とまちを繋ぐりんごの輪～



信州、伊那平の南部にある飯田はアルプスの山々や天竜川の自然に恵まれ、果樹や精密機械などの産出だけではなく、人形劇などの固有の文化を育んできた豊かなまちです。しかし、人口減少と高齢化により、地域の活力は徐々に失われているという危機感が顕著になってきました。2027年にはリニアの駅ができて交通利便性が高まることから、活性化の期待も高まっていますが、一方で、かえって衰退に拍車がかかるのではないかと危機感も生まれています。

地域で様々な議論が起こる中で、自分たちが主体的に自分たちのためのまちづくりを進めることが大切だと考えて、行動を始めるメンバーがでてきました。彼らは、地域に眠っている物的、人的な資源を外部の人の力も借りて有効に活用していこうと考えました。また、身の丈に合った規模でまちづくりを行うことやリニアの開業時期を見据えた戦略をつくりました。

彼らの行動は、当初は周囲から半信半疑で見られていましたが、徐々に成果が現れてくると、賛同者も増えてきて、中心市街地を拠点に活動が広がっていきました。そして、リニア開業後は、飯田の魅力に気がついた外部との交流や移り住む人も増えて、都会とは異なる豊かな暮らしを体現することができました。

〈登場人物〉

再興に奔走する三人衆：ヨソモノ、ワカモノ、バカモノ

飯田の魅力に目覚めた人達：感度の高い来街者（タズネビト）

中心市街地で育つ新たな人材（ソダチビト）

暮らしやすさを実感した地域住民（スミビト）

〈再興の取組み〉

新たな人の流れ：平面移動と乗り継ぎ経路短縮化にこだわった駅前再編

市民サービス提供：多世代が集い交流する場の創出

産業・観光振興：人材育成・地域活性化のしくみづくり

都市骨格づくり：町割りを発展させた「つなぐ」「回遊する」都市軸の形成

まちなか更新：活力があり、歩いて楽しいまちづくりを住民主導で実践



駅東側上空から駅舎を見る



通り町からりんご辻を見る



裏界線から知久町横丁を見る